

第52回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミ	チーム名	ムーヤンの南京町
タイトル	南京町の活性化について		
テーマ群	d) 国際経済、f) 歴史・思想		
メンバー	福田壮一朗、岡村侑哉、林隆介、山本康誠、西陸斗、森岡里奈、大槻春佳、鈴木蒼空		
研究計画内容	<p>【研究背景・研究目的】</p> <p>近年、新型コロナウイルスの流行により私たちの生活は大きく変わり、その中でも飲食業と観光業は多大な影響を受けた。そこで私たちが着目したのが、神戸の代表的な飲食街かつ観光地の一つである「南京町」である。南京町は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた対象としてだけでなく、私たちの（岡田）ゼミのテーマである神戸と国際交流のかかわりを語るうえで無視できない存在であり、歴史的にも重要な存在である。</p> <p>以上から、今回の研究では、歴史と現状課題をふまえながら、コロナ禍のあおりを受ける中、どのようにすれば神戸南京町を活性化することができるかを検討する。</p> <p>【研究内容】</p> <p>今回は、「南京町の歴史」→「南京町の現状課題」→「今後の南京町の活性化のために」と、過去から現在、未来へとたどりながら、南京町に関する研究を行った。</p> <p><u>南京町の歴史</u></p> <p>1868年の神戸港開港以降、外国船が多く神戸に入港し、同時に中国人も多数入国した。しかし、当時中国は日本の条約非締結国であったため、華僑は神戸の外国人居留地に住むことができず、その多くは居留地に近い雑居地に暮らし、生計を営むことになった。これが現在の南京町の始まりである。以後、戦災や震災を克服しながら神戸の街の発展に大きく寄与してきた南京町の歴史過程を紹介する。</p> <p><u>南京町の現状課題</u></p> <p>現在南京町が直面している課題として、主に組合問題と集客問題が挙げられる。組合問題では南京町商店街振興組合の結束力の弱さや組合費の高さへの不満などがあり、集客問題ではコロナ禍による客足の低下がある。私たちが直に南京町へフィールドワークを行った成果をふまえながら、これらの課題の詳細を説明する。その結果、手軽に中華料理が楽しめる観光スポットとして人気を博してきた南京町が、今後の発展を遂げる上で大きな困難を抱えていることを明らかにする。</p> <p><u>今後の南京町の活性化のために</u> 【期待される効果】</p> <p>まずは上記の組合問題を改善することが、南京町内部の不和の軽減や意思疎通の促進につながる。これにより、南京町をあげてのマーケティングやサービスの向上がうながされ、コロナ禍で落ち込んだ集客数をふたたび伸ばすことが可能になるであろう。このように一体化した組合問題と集客問題への対処が南京町活性化の鍵となることが期待される。</p>		